

令和5年度 第二中学校区地域包括支援センター事業実施評価票

実施方針	目標	具体的な取り組み		実績	評価	
					取組毎の評価	方針毎の評価
必須項目	高齢者を地域で支える体制づくり 高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう地域資源を整えていく。	しまとし連絡会の活用方法を考える	令和4年度にしまとし連絡会を立ち上げたが、うまく機能していないため、どのように活用していくことが望ましいのか再度検討をする。	年度末に開催予定。	○	○
		大草住宅出張相談会の実施の仕方を再検討する	年4回の開催 4月：顔合わせ・今年度の活動内容を検討する 7月：相談＋講話 10月：相談＋講話 令和6年3月：相談＋講話＋来年度に向けて	予定通り開催ができています。	○	
		徘徊高齢者の探索についての体制作りを考える	元島田地区での徘徊高齢者の探索の振り返りを行い、どのように搜索活動をしたら、素早い対応に繋がり、早期発見に努められるのか考えていく。（自治会、民生委員、治癒自主防災組織、民生委員、行政、包括）	開催に向けた準備を進めている。	○	
認知症施策の推進	認知症の理解を促進し、誰もが安心して暮らすことのできる町づくりを整備していきます。	チームオレンジ「きすな」の活動の見直しの実施。	キャラバンメイト連絡会を年2回開催予定。 ①顔合わせ及び現状報告（キャラバンメイト及びチームオレンジ「きすな」） ②チームオレンジ「きすな」を今後どのように活用していくかの検討。	①6月、10月に開催済み。 ②活動の場が広がっている。	○	○
		認知症を正しく理解してもらうために、教育機関や企業、福祉事業所などに働きかけ、認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年4回実施する。	第二中学校区の教育機関や企業、福祉事業所などに講座案内を配布するとともに、認知症サポーター養成講座を年4回実施する。	7/11第四小学校 8/7第四地区民生委員児童委員協議会 10/17第三小学校 10/24大津小学校	◎	

選 択 項 目	多職種、多機関とのネットワーク構築	共生社会を目指すために、多職種、多機関との顔の見える関係づくりを強化する	専門職による情報共有や連携向上を目的とした勉強会をオンラインを使い定期的に開催する	多職種地域連携会議を毎月1回オンラインで開催する。(薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、保健師、主任ケアマネ、ケアマネ、社会福祉士など)	毎月実施ができています。	○	○
	センターの認知度を高めるための周知活動	身近な相談窓口として認知してもらえよう、積極的に地域に出向き周知していく	第二中学校区地域包括支援センター独自の広報誌を作成し、地域の病院、薬局、商店などに掲示したり、講和で配布することでセンターの周知を図っていく。	広報誌の年4回の発行 第二中学校美術部に周知の為のポスターを作成してもらう	広報誌は計画通り発行できているが、第二中学校三述部のポスターは今年度実施が難しいとの回答。	○	○
	介護支援専門員に対する連携づくりと実践力向上支援	地区におけるケアマネと連携強化を図り、質の高いケアマネジメントが提供できるようになる	顔の見える関係づくりを強化し、地区の介護支援専門員に対し、情報発信や、適切なケアマネジメントができるよう支援をする。 気軽に相談できる窓口となる。	年3回の連絡会の開催。 ①今年度の島田市の総合事業についてや市の高齢者背策の変更点の情報共有とケアカフェ ②訪問看護との合同研修会 ③成年後見制度について知ろう	①5/30実施 ②8/18実施 ③11/13実施	○	○

課題・今後の方向性

しまし運営において必要な情報を必要な時期に提供できるよう、意見交換をしていく。

参加人数が少なく、参加者も変わらないが、毎月の開催を望まれている。今後自主運営ができるかを検討する必要がある。

11月28日(火)開催予定。
元島田地区徘徊高齢者の見守りネットワークの体制づくりについて提案および意見交換を実施予定。

②については、周知され活動の場が広がっている。認知症サポーター養成講座への協力を得られるようになった。

実施の学校や地区内の企業、福祉事業所等にも働きかけをしていく必要がある。

市内介護支援専門員
の参加を促したい。

広報誌は継続し、ポス
ター作製依頼は、小学
校にも依頼をかけてい
く。

市内介護支援専門員
が不足していることか
ら、出席が難しく、他の
研修とも内容が重複す
るため、研修開催方法
を再度検討していく。